

歯科医療危機の打開へ

決起集会に歯科医師ら341人が結集

「命を守る」保険で良い歯科医療の実現を求める集会が10月27日、東京都内で開かれ、「歯科医療危機の打開を」と歯科医師や歯科衛生士、歯科技士ら歯科医療関係者341人が決起した。政府が進める社会保障改悪や消費税増税、TPP参加などに反対し、「全ての国民が安心して受けられる保険で良い歯科医療の実現」を目指すアピールを採択した。

保険でよい歯科

全国保険医団体連合会の宇佐美宏副代表が開会挨拶し、「歯科医療は低診療報酬と患者減の『二重苦』にさらされている」と指摘。その一方で、多くの市民が保険で良い歯科運動に期待を寄せているとして、「患者と共に運動を進めよう」と訴えた。

基調報告した全日本民主医療機関連合会の江原雅博歯科部長は、医院の経営難や口腔崩壊など歯科医療をめぐる深刻な実態を告発。「保険で良い歯科署名は現時点で過去最高の28万筆近くに達し、自治体の意見書採択は全市町村の33・6%に上る。運動が大きく広がっている」と話した。

リレートークでは、各地の歯科医師や歯科技士らが発言した。協会の戸井逸美副理事長が歯科技工所アンケートの結果を報告し、長時間労働や技工料のダンピングの実態を紹介。歯科技工を立って直すには「歯科医療全体を改善しなければならぬ。歯科医師と歯科技工士、患者・国民が一体となった運動が必要だ」と強調した。

子参院議員(共産)が挨拶した。協会から小澤力理事ら38人が参加した。集会に先立って、東京都内で「保険で良い歯科」署名の街頭宣伝を実施。約1500人の医師・歯科医師らが署名を訴え、多くの通行人が協力し、1時間の宣伝で560筆超が集まった。

保険でよい歯科医療を大阪連絡会は10月24日、患者窓口負担の引き下げや歯科の保険範囲の拡充などを求めて、大阪選出の衆参国會議員に要請した。宮本岳志衆院議員(共産)と辰巳孝太郎参院議員(同)と面談し、「保険で良い歯科医療の実現を求める請願署名」1千筆を提出。山下芳生参院議員(共産)にも秘書を通して請願署名500筆を提出した。

辰巳議員は、協会の学校歯科調査に関心を示し、要治療児童の半数が受診していない実態を改善するため、子ども医療費助成の拡充などの制度改善に賛同した。宮本議員は文部科学委員の立場から学校保健の問題として、「担当課との懇談を基に委員会を取り上げることも出来る」と発言するなど、運動への協力を約束した。

午後には、憲法を活かし、いのちと人権が大切にされる社会保障の充実を求め、「いのちまもる10・24国民集会」が日比谷野外音楽堂で開かれた。雨の中、協会の要請をはじめ3千人が駆けつけた。

宮城県保険医協会の井上博之氏が発言した。井上氏は被災地への医療費免除で歯科の患者が20%増えたことを紹介。口腔状態の悪化し、70〜74歳の患者窓口負担1割の継続や、消費税増税の中止などを地元議員に要請した。(次号に要請議員一覧)

命を守る国民集会に3千人

「今でしょ！」の林修氏が挨拶

午後には、憲法を活かし、いのちと人権が大切にされる社会保障の充実を求め、「いのちまもる10・24国民集会」が日比谷野外音楽堂で開かれた。雨の中、協会の要請をはじめ3千人が駆けつけた。

歯界

協会では平和と民主主義と国民の生活と健康を守ることをスローガンに掲げている。機関紙活動はその土壌上の相撲である。だが、物書きはスローガンに縛られるのが苦手で、時に窮屈に感じる。年中、平和や民主主義を唱えているのではなく、これまで日常の頭の中は、卑劣な妄想や、あつかましい野心やらが渦巻いていた。

平和と民主主義という言葉も時の流れの中で輝きが変わり、濃淡や深さも幅も変化するのは、掲げている個人の生活が変わるからだろう。歯槽膿漏が歯周病に、痴呆が認知症にと言葉が変わるのに、平和も民主主義も長命言語である。変なものに取って変わらぬのは上々である。

その言葉の意味の劣化は避けてきたが、拘束性は健在である。私は人品が卑しいから格調の低い駄文を弄しているが、長年私を拘束していた協会のスローガンが貴重な私の背骨になって全身を支えている。

紙面へのご意見や感想、投稿記事などを新聞部までお寄せください。紙面に掲載させていただいた場合は、図書カード3千円分を進呈いたします。(郵送やファクスで、協会新聞部までお寄せください)

「国際社会の一員としての義務」と強調し、国連決議に基づく多国籍軍に自衛隊が参加することを容

署名1500筆を提出 学校歯科問題で2議員と懇談

国会要請



上：辰巳孝太郎議員(左) 下：宮本岳志議員(中)

宮城県保険医協会の井上博之氏が発言した。井上氏は被災地への医療費免除で歯科の患者が20%増えたことを紹介。口腔状態の悪化し、70〜74歳の患者窓口負担1割の継続や、消費税増税の中止などを地元議員に要請した。(次号に要請議員一覧)

国連決議なき戦争にも加担

神戸学院大学教授 上脇 博之

1990年にイラクがクウェートに侵攻したことを機に、アメリカは、国連の安全保障理事会の決議を積極的に利用し、米軍が多国籍軍(連合軍)の中核的軍隊となり、戦争を行ってきた。

今年3月9日の「BS朝日」の番組で安倍首相は「日本が国際的な集団安全保障の中に参加できない道は残した方がいいのではないかと述べ、9月17日に総理大臣

改憲の足音

宣邸で開催された第2回有識者会議「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」でも我が国は、国際協調主義に基づき、積極的に世界の平和と安定に貢献する国にならねばなりません」と発言。つまり、安倍首相は多国籍軍にも日本を参加させたいのである。



だが、日本政府は従来「国連憲章上の」集団安全保障に関する措置のうち憲法9条によって禁じている武力の行使、または武力の威嚇にあたる行為については、我が国としてこれを行うことが許されない(連憲)との立場だ。

ところが、自衛隊を「国防軍」にしたい自民党「日本国憲法改正草案(2012年4月27日)」は、「国防軍」が「国際社会の平和と安全を確保するために国際的に協調して行われる活動」への参加を許容しているが、ここには「国際連合」の文言がないのである。

紙面へのご意見や感想、投稿記事などを新聞部までお寄せください。紙面に掲載させていただいた場合は、図書カード3千円分を進呈いたします。(郵送やファクスで、協会新聞部までお寄せください)

11/15 2013年第1155号 (毎月5、15、25日発行) 大阪府歯科保険医協会 敬 志岐 大 阪 市 浪 速 区 幸 町 1-2-33 電話(06)6568-7731(代表) http://osk-net.org/ ●定価・年間10,000円 月1,000円 ●1977年5月23日第三種郵便物認可